

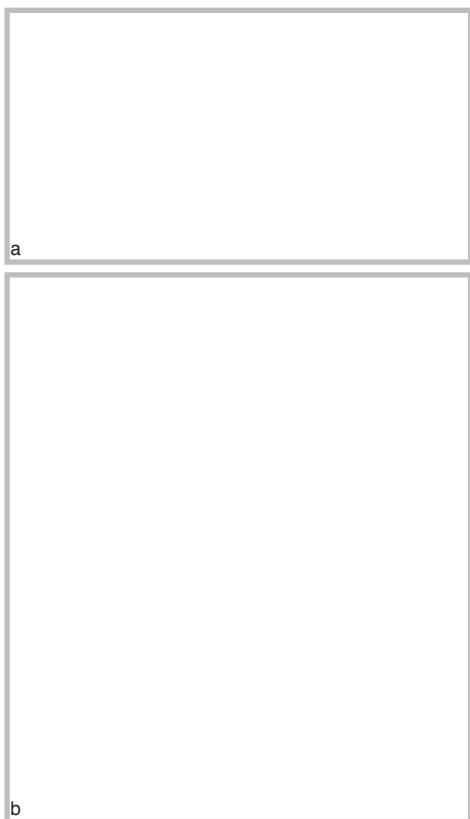


図 23.30 伝染性紅斑 (erythema infectiosum)
a：両頬に現れた紅斑 (slapped cheek)。b：上肢に生じた紅斑。

ワクチンの種類

MEMO



4. 伝染性紅斑 erythema infectiosum ★

同義語：第5病 (fifth disease)

Essence

- ヒトパルボウイルス B19 による感染症。いわゆる“りんご病”。
- 頬が紅潮し，上下肢に丘疹性紅斑が現れ，紅斑は融合しレース状となる。1 週間程度で，落屑や色素沈着を残さずに治癒。
- 妊婦が感染すると胎児水腫を起こす危険がある。溶血性貧血患者が感染すると急性赤芽球癆^{ろう}をきたし，著明な貧血を起こす。

症状

俗称“りんご病”。春～初夏にかけて流行する。年長児や学童期に好発するが，成人例も少なくなく，とくに小児から感染しやすい母親や看護師など女性が多い。潜伏期は4～14日であり，前駆症状に乏しいが，インフルエンザ様のカタル症状がみられる場合がある。突然，平手で頬を打たれたような紅斑〔平手打ち様紅斑 (slapped cheek)〕が両頬に現れ，1～4日で消退する（図 23.30）。顔面の皮疹に1～2日遅れて上肢伸側，ついで下肢伸側に直径1 cm 程度の紅斑が出現する。次第に融合したのち，中心部から消退するためふちどりが残ってレース模様状の紅斑となり，特徴的な所見となる。体幹でも紅斑が生じるがレース状にはならない。皮疹は1週間程度で，落屑や色素沈着を残さずに消退する。

成人例では平手打ち様紅斑が目立たず，四肢の非特異的紅斑と関節痛，抗核抗体上昇がみられ，膠原病と鑑別を要することがある。四肢末端の浮腫性紅斑や紫斑 (papular purpuric “gloves and socks” syndrome) をきたすこともある。

妊娠 20 週未満の妊婦が感染すると，胎児水腫や胎児死亡をみることがある。溶血性貧血や免疫不全患者では，赤血球数の急激な減少〔急性赤芽球癆による低形成発作 (aplastic crisis)〕が起こり，著明な貧血をきたす。

病因

DNA 型パルボウイルス科に属する，ヒトパルボウイルス B19 の飛沫感染による。経気道感染で侵入し，感染4～7日で骨髓の赤芽球内で増殖，ウイルス血症をきたす。顕性感染は幼児で70%，成人で30%である。

治療

皮疹以外の症状が強い場合には対症療法を行う。治癒後も数週間は日光曝露や運動などにより皮疹が再燃することがある。